

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.7.29

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

8月、9月の石神井川観察は、8/11(木)、8/26(金)、9/8(木)、9/23(金)
9:40JR 社宅前街路の観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

街路樹の下の「雑草」の役割

炎天下、地表温度の上昇を抑えてくれるのは野草



7/29、環境省の熱中症予防サイトが「危険」を知らせる中、観察活動を実施。

帝京大学付属病院北側の道路が整備されてから3か月。街路樹の植え込みの下はもう野草でいっぱいになりました。いずれ、この植え込みも手入れされて、野草は全部剥ぎ取られるのでしょうか、帰り際の12時頃、地表温度を測ってみました。デジタル温度計の上段の表示は草むらの中にセンサーを置いて(黄色の円内)ケー

ブルにつないで測った温度、下段が温度計内部のセンサーが感知した温度です。

下の3枚の写真のうち、いちばん左は肩掛けバックにしまっていたデジタル温度計を取り出して地面に置いた直後で、バックの中の温度が反映されています。バッグの中は蓄熱されているので大気温よりも高くなっています。温度計を数分間置いておくと真ん中の写真のように、コンク



リートの上の温度がぐんぐん高くなってきます。これは温められたコンクリートからの輻射熱によるものです。一方、草むらの中に置いたセンサーの示す温度は少しずつ低くなって36℃台を示しました。センサーを地表近くの日陰に置いているから気温が低いのかと思って、今度は右の写真のように、センサーを野草の葉の上に置いてみました。また、数分後に表示を見ると、なんと草の葉の上に置いたセンサーが感じる温度はさらに下がって35.6℃。コンクリートの上よりも4℃以上低いのです。使っているデジタル温度計の精度は良くないので正確なものではありませんが、同じ炎天下でもコンクリートの上よりも草むらの葉の上はかなり温度が低いことが分かりました。

こういうことを考えれば、「環境整備」の名のもとに街路の地面に生えた草を根こそぎ刈り取ってしまうのは、大気温の上昇（地球温暖化）を促進するのに一役買っていると言えます。

猛暑のなかでも、ほっとさせられる花々

↓草原ではアカツメクサ



↑見上げればトウネズミ



↑サルスベリ（園芸品種）



モチの花

←ツタの実。ブドウみたい。

それもそのはずツタはブドウ科。

初めて出会う植物→

カヤツリグサに似た花穂ですが、カヤツリグサは小穂が3

つに分かれているのに対して、こちらの小穂は1つ。図鑑で見たらカヤツリスゲというのがありました。両方ともカヤツリグサ科であって、片やカヤツリグサ属、片やスゲ属と説明されると、なおさら混乱???



下は、イノコズチに似ている植物。小穂がイノコズチよりもふっくらしていて、葉は柔らかい



うで全体に優雅。結局、分かりません。同定できず。お手上げ

右は、最近増えてきたワルナスビ。いろいろ問題がある植物ですが、花はきれいです。



7/29の観察では、木村は熱中症の予感がして、大事をとって途中離脱しました。残った方が観察を続けてくれました。みなさまも無理をしないでください。